

4月以降、未曾有の新型コロナウイルスの感染拡大と、収束に向けての先行きの見えない閉塞感が全土を覆う中で、改正健康増進法(改正法)が施行されて約2か月が経過した。その中で、「たばこ問題」の報道を拾つてみた。

政府の新型コロナウイルス(以下、コロナ)対応の緊急事態宣言が4月7日に発出、そして5月4日にその延長が決定して、経済の先行きに影を落とした。とくに飲食店等への休業要請に伴う臨時休業・廃業などが取り沙汰され、厳しい状況下にあって、マスコミ各社はコロナ問題を最重点課題に捉えて報道してきた。

改正法・東京都受動喫煙防止条例の全面施行は、ニュースバリューがないはずだ。ところが、たばこ問題を取り上げた紙面が散見された。その中で目を引いたのは、4月下旬に掲載された小池百合子都知事へのインタビューだった。小池

あつた上杉綱憲は、赤穂浪士

吉良上野介の長男であり出

羽国米沢藩上杉家の当主で

軽井沢町だが、江戸時代は

あつた上杉綱憲は、赤穂浪士

あつた上杉綱憲は、赤穂浪士